別紙　1

しまね学校図書館活用コンクール
応募票

学　校　名	松江市立古志原小学校
学　校　長　名	柳　野　幸　敬　　印
記載責任者名	足　立　優　子
連絡先電話番号	（０８５２）２３－９５１１

（〇）読書活動

1　取組の概要

2　読書活動の資料・作品・写真等

	活動等の名称	添付資料・作品等	添付数	活動中の写真の有無
1	ふれあい読書	読書の記録カード 児童の感想・保護者の感想 学級便り		有・無
2	読み語り	読み語りカレンダー 記録ノート 図書ボランティアの便り		有・無
3	図書祭り	図書祭り案内（教員用・児童用） スタンプラリー・ビンゴカード 図書委員会の感想	2 7	有・無
4	校内読書週間	読書賞一覧 特別券		有・無

（　　）学校図書館を活用した授業実践

1　取組の概要

2　学校図書館活用教育年間計画　※どちらかに〇をつけてください。　有　・　無

3　学校図書館を活用した授業実践の資料

	単元名・資料名	学年	教科	添付資料等	添付数
1					
2					
3					
4					

※　読書活動または学校項図書館を活用した授業実践のうち、いずれか一つに〇をつけてください。

別紙　２

しまね学校図書館活用コンクール
取組の概要

学校名　　松江市立古志原小学校

１　応募部門　※　応募する部門に〇を付けてください。

（ 〇 ）読書活動部門

（　　）学校図書館を活用した授業部門

２　実践のねらい

〇朝読書を通して、読書の習慣化を図る。
〇校内読書週間・図書祭り・ふれあい読書等の多様な読書活動を通して、豊かな心情を育む。
〇教職員や図書ボランティアと連携を図り、読み語り・ブックトーク・ストーリーテリングをすることにより、子どもたちの読書の世界を広げる。

３　実践の概要（学校図書館とのかかわりがわかるように記すこと。）

1、ふれあい読書

上学年が下学年に読み語りをする活動である。縦割り班のメンバーで、基本的にマンツーマンでの読み語りであり、学校図書館司書が配置される以前から取り組んでいる。

6 年生は、毎週金曜日の朝読書の時間に、1 年生に読み語りをしている。事前に 6 年生は読み語りをする本を準備しておくのだが、学校図書館での本の貸出は 1 冊である。そのため、特別にふれあい読書用としての本の貸出を 2 冊設定にしている。ふれあい読書後は、6 年生は読書の記録カードに、期日・本の題名・読書後の感想を書きとめるようにしている。

他学年のふれあい読書は、毎週ではなく、読書週間に合わせて行っている。5 年生は 3 年生に、4 年生は 2 年生に本の読み語りを行っている。5 年生と 4 年生がふれあい読書をするのは秋の読書週間の時期で、本の貸出も 2 冊設定にするため、1 冊はふれあい読書の準備用をして本を借りている。

2、読み語り

本校では、昨年度から毎朝８：２０～８：３０は読書に取り組んでいる。読書のしかたは、曜日によって異なり、次のように設定している。

・月曜日・火曜日・木曜日 … 一人読み（自分が読みたい本を読む。）
・水曜日 … 担任以外の教員（管理職・専科）や図書ボランティアによる読み語り
・金曜日 … 担任による読み語り

水曜日については、司書教諭が読み語りカレンダーを作成し、各学級に誰が読み語りに来るのかが分かるようにしている。ただ、担任以外の教員と図書ボランティアの人数よりも学級数の方が多いため、低学年・中学年・高学年でローテーションを組んで行い、読み語りに来る人がいない学年については、担任が読み語りをしたり、学年内で担任同士が入れ替わって読み語りをしたりしている。

学校図書館の本を教員や図書ボランティアが利用できるように、個人カードを作成して貸出を行っている。また、どんな本を読み語りしたのかが互いに分かるように、教員・図書ボランティア・担任が記録するノートを各学年で用意している。水曜日に読み語りをしてもらった際には、担任はノートの記録を確認し、押印したりコメントを簡単に記入したりして、読み語りについての連携が図れるようにしている。

3、図書祭り

図書委員会が企画・実行する読書活動で、本校では毎年恒例のイベントである。図書委員会の子ど

もたちが、グループに分かれて学校図書館や本に親しんでもらえるようなコーナーを考え、校内読書週間に実施している。また、図書祭りについての内容を全校に周知徹底させるために、校内にポスターを貼ったり、放送で知らせたりして、PR している。

司書教諭は、教職員の理解と協力が得られるように、職員会議で提案して図書委員会の活動の支援を行っている。さらに、図書ボランティアにも呼びかけ、図書祭りの際には、読み語りコーナーを設けて協力をお願いしている。

4、校内読書週間

毎学期 1 回、校内読書週間を設けている。1 学期は、春の読書週間に合わせて、その期間は学校図書館の本を 2 冊借りることができるようにしている。また、図書ボランティアによる読み語りコーナーをノー掃除の昼休みにお願いしている。春は、図書委員会が始まって間もないため、委員会の子どもたちは、図書館にある「ミッケ」の本を使ったクイズや怖い話を実施している。

2 学期は、前出の図書祭りを実施している。秋の読書週間と合わせて行いたいが、校内行事（音楽会）と重なり、実施が難しいために時期はずれる。ただ、秋の読書週間にも本に親しむ活動を行いたかったため、今回は、この時期にも学校図書館の本を 2 冊借りられるようにするとともに、全校でふれあい読書を行った。

3 学期は、子どもたちの「本を 2 冊貸してほしい。」という要望が多いため、設定した。本を 2 冊借りることができるようにするとともに、図書ボランティアによる読み語りコーナー、教員による怖い話のコーナーを設ける。

４　実践の成果

１、ふれあい読書

上学年の子どもたちは、どんな本を下学年の子どもたちが喜んでくれるのか、どんな本が楽しいのか、自分なりに考えたり、学校図書館司書に相談したりして本を準備していた。また、間違わないように自信をもって読めるように、と一生懸命練習を行って読み語りに臨んでいた。下学年の子どもたちも、そんな上学年の思いが分かるようで、楽しそうに耳を傾けていた。上学年の読み語りを、音読のお手本にする子も見られた。

学校図書館の本を読み語りすることにより、自然に本の紹介になるとともに、下学年が読み語りしてもらった本に親しむきっかけになっている。

２、読み語り

色々な人が学級で読み語りをするので、子どもたちも誰が来るのか、楽しみにしている。また、学習に関連した本を紹介してされたり、普段手にしないような本を読んでもらったりすることで、子どもたちの本の世界が広がるきっかけになっている。

３、図書祭り

多くの子どもたちが学校図書館を訪れるので、図書祭りの際の本の貸出冊数は、普段の２～3 倍になる。ただ、いつも本を借りるために長蛇の列ができ、授業に遅れることもおきるので、それが解消できる手立てを講じる必要がある。本の貸出ソフトが最新のものになれば、かなり時間短縮が可能になるであろうが、パソコンのメモリーに限界があり、厳しい状況である。

４、校内読書週間

子どもたちは、本を 2 冊借りることができるので、校内読書週間をとても楽しみにしている。この期間を設けることにより、子どもたちの読書に対する意欲が高まり、貸出冊数も、学校図書館司書が配置される以前に比べ、今は、4 倍以上になっている。

※Ａ４判で１～２枚にまとめる。